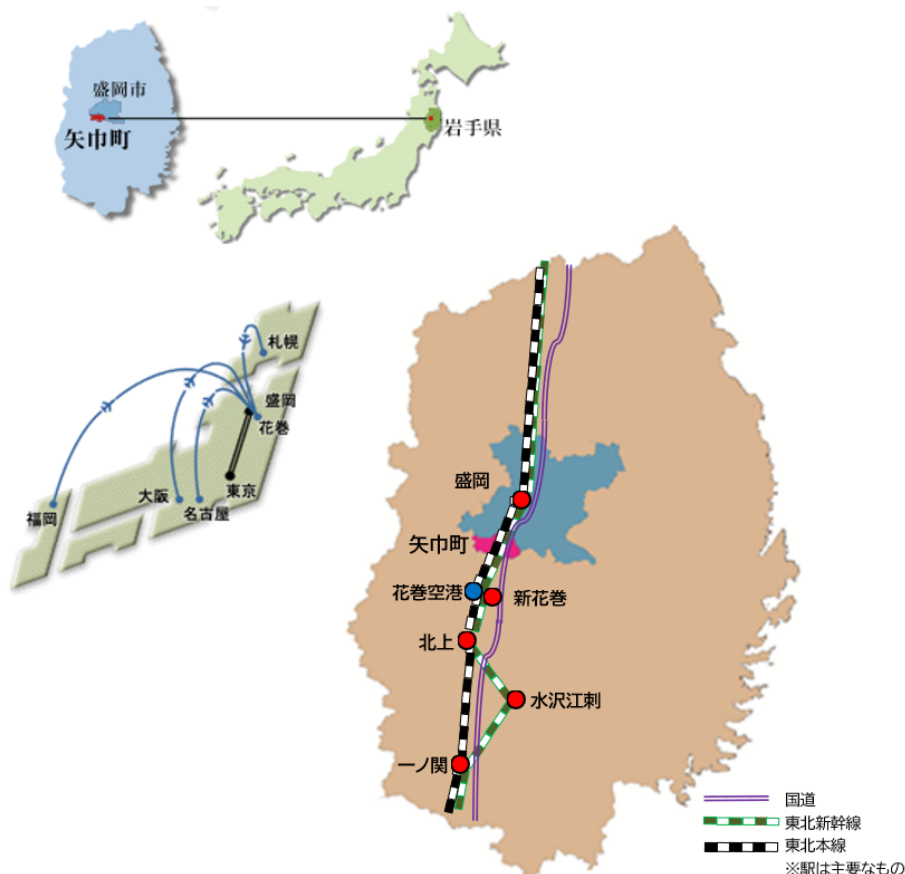


ようこそ矢巾町へ

矢巾町のプロフィール

面積: 67.32 km²
総人口: 27,004 人
世帯数: 11,093 世帯
(令和7年10月1日現在)

岩手県矢巾町は、県内のほぼ中央に位置し、県庁所在地である盛岡市の南に隣接する田園都市です。東に母なる北上川が流れ、西に町のシンボルである南昌山をはじめとする奥羽山脈の山並みが連なり、田園地帯が広がる自然豊かな環境に加え、東北本線や東北新幹線そして東北自動車道や国道4号など交通においても恵まれた町です。



交通アクセス

高速道路	
盛岡IC-矢巾SIC	7分
仙台宮城IC-矢巾SIC	1時間55分
浦和IC-矢巾SIC	5時間25分
矢巾SIC-矢巾町役場	6分
飛行機	
札幌(新千歳)-花巻	55分
名古屋(小牧)-花巻	1時間10分
大阪(伊丹)-花巻	1時間20分
神戸-花巻	1時間30分
福岡-花巻	1時間55分
花巻-矢巾町役場	40分(車)
東北新幹線・東北本線	
東京駅-盛岡駅	2時間10分
仙台駅-盛岡駅	40分
盛岡駅-矢幅駅	12分
矢幅駅-矢巾町役場	5分(車)

矢巾町の歴史

矢巾町の歴史は縄文時代にさかのぼり、町内からは土器や石器が出土しており、早くから人々の生活の場であったことがわかる。奈良時代から町域内に在地の蝦夷の集落が形成されてくるが、平安時代初めには、蝦夷支配と北方経営の拠点として現在の西徳田付近に古代城柵の徳母城が築かれた。徳母城は胆沢城とともに、陸奥国北部の統治を行うための軍事・行政拠点として古代律令国家による征夷政策を示す史跡として著名である。その後、町域では中世には奥州藤原氏の一族である樋爪氏、その後足利氏一門の斯波氏などが支配し、近世には南部氏の盛岡藩領として農業を中心に発展した。また街道の整備により周辺地域との往来も盛んになり、地域社会が安定していった。明治時代には町村制の施行により村が整備され、昭和30年に徳田村・煙山村・不動村の3村が合併して矢巾村が誕生し、昭和41年には町制施行により矢巾町となり、現在へとつながる基盤が築かれた。

※背景は徳母城復元イメージ図